

# 博物館だより



No.201

令和5年8月1日

みやこ町歴史民俗博物館発行  
福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13  
TEL 0930-33-4666  
FAX 0930-33-4667

博物館休館日カレンダー  
2023年8月

日	月	火	水	木	金	土
30	31	1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31	1	2

休館日 ※情報はR5.7.20現在

## ◆博物館NEWS

### ◆吉田兄弟ものがたり展 大盛況のうちに閉幕

令和改元周年みやこ町先人顕彰マンガ完成記念特別展  
から6月25日まで「令和」改元5周年及びみやこ町先人顕彰マンガ完成を記念した特別展「吉田兄弟ものがたり展」を開催しました。この企画展はマンガの各場面に沿って兄弟の関連資料を展示し、兄弟の人生や功績を多くの人々に広く知っていただくことを目的に開催しました。約50日の会期中、観覧者がこれまでに実施した企画展では最多の1882名に達するなど盛況のうちに閉幕することができました。また企画展開催中に、兄弟の子孫の方々から東京をはじめ、遠方からお見えになるなど様々な反響もみられました。

さらに企画展の来館者から「この町出身の人物が一番馴染み深い昭和の元号を考案したことを初めて知った。誇りに思った。」「展示されているレトログッズは家にあつたものばかり。展示資料になるなら捨てなさいよかった!」などの感想をいただき、改めて「昭和の原点はみやこ町!」というメッセージを発信する機会となりました。



▲「昭和レトログッズ」は中学生にも大人気!



▲人気の「元号発表体験」コーナー写真は「博物館友の会」白川会長

### 博物館「夏休み子ども教室」 みやこの「岩石・鉱物標本教室」

実施日時

8月27日(日) 13時30分～

実施場所

博物館ホール

参加対象者

みやこ町内の小学生とその保護者で、電話(上記連絡先)による事前申込みが必要。

先着30名(児童数まで)。  
\*低学年(1~3年生)は、保護者同伴の参加が前提。

申込受付開始日

8月5日(土) 9時～

参加費

1名 200円



▲完成標本(イメージ)



夏休みの自由研究に!

### ★講座教室 催し物ガイド 8月の歴史講座

【漢詩紀行講座】

8月5日(土) 9時30分～

【古典かな講座】

8月19日(土) 9時30分～

【みやこ学講座】

8月26日(土) 10時～

【古文書講座】

8月26日(土) 13時30分～

※日程等変更となる場合があります。  
※見学会等は別途通知します。

### 博物館で「楽習」始めませんか?



▲ボランティア・ガード編の様子 町の文化遺産のクリーン活動等を通じて保護活動をサポートします

博物館は郷土資料と学芸員らのサポートによる知と学びの拠点です。以下の会や講座を利用して楽しく学びませんか? 詳しくは博物館へお問合せ下さい!

#### ★博物館友の会

バスハイク・歴史たんけんウォーク等の学びの旅やイベントに参加できます。

#### ★文化遺産ボランティア(豊み隊)養成講座

町の宝を三つのアクション①ガイド(案内)②ガード(管理)③ワーク(調査)でサポートするスタッフを募集・養成する講座です。

### 6月・7月の業務日誌から

6月~7月にかけて町内小・中学校6校の児童・生徒362名を対象に、先人顕彰マンガ「吉田兄弟物語」を活用した地域学習を実施しました。児童生徒は兄弟が成し遂げた功績の大きさに驚き、またマンガに登場した町内の学校や地域の地名に興味津々の様子でした。

7月11日(火)、前日迄の豪雨を受けて町内文化財を巡検した結果、永沼家住宅(犀川帆柱)で小規模な土砂崩れが確認されました。小規模とはいえさらなる被害が生じる恐れもあるため、早急に復旧する必要があります。



▲法面が崩落して、家屋まで土砂が迫っています



▲マンガを使った授業で兄弟の功績の大きさと故郷への想いを詳しく知ることができました

# みやこの歴史発見伝 160

## 「野球」からみる みやこ町の歴史遺産

### 甲子園の土

今年も「夏の甲子園」の季節となりました。全国の高校球児の憧れの舞台である、この大会は大会は4年（1915）に第一回大会が開始され、今年で105回を迎えます。この大会の舞台で「高校野球の聖地」となっているのが、「甲子園球場」ですが、ここでくり広げられる試合が終了した後、この球場を去る多くの球児が「甲子園の土」を持ち帰る姿を目にします。この球場で行われる試合を象徴するこの「儀式」がいつ、誰によって始められたのか定かではありませんが、様々な証言の中に次のようなエピソードが残されています。

終戦直後の昭和22年（1947）に開催された第29回大会で小倉高校が優勝し、この時初めて優勝旗が関門海峡を渡ることになりました。同校は翌年も優勝し、福岡一雄投手をはじめとした選手は3連覇をかけ昭和24年（1949）の第31回大会に臨みますが、準々決勝で敗れてしまいます。果然と立ちつくす福岡投手は、無意識のうちに足元の土をつかんでズボンのポケットに入れ球場を去ります。これを見ていた大会の副審判長が

小倉に帰った福岡投手に速達で「君のユニフォームのポケットにはきつと大事なものが入っているはずだ。」と伝えました。

この感動的なエピソードが有名になり、福岡投手は「甲子園の土を最初に持ち帰った球児」と言われるようになります。福岡投手が在籍した小倉高校は、今年で265年の歴史をもつ「育徳館」と同じ小倉藩の藩校「思永齋」をルーツとする学校としても知られています。

### はじまりは「打球鬼ごっこ」

本年3月に日本中を「歓喜と感動の渦」に巻き込んだ「ワールド・ベースボール・クラシック（WBC）」優勝ですが、この偉業を成し遂げた日本代表選手「侍ジャパン」の活躍が映画化されるなど、今日もその興奮の余韻を感じることができます。日本の野球の起源は、明治4年（1871）に来日した米国人ホーレス・ウィルソンが当時の東京開成学校予科（現在の東京大学）の学生に指導したことが最古の事例とみられています。当時は試合風景を見た人々から「打球鬼ごっこ」という名で呼ばれたそうです。ホーレス・ウィルソンは平成15年（2003）に野球殿堂入りを果たしています。その後「ベースボール」を、「野球」と初めて日本語に訳したのは、

第一高等中学校（現在の東京大学）野球部員であった中馬庚という人物ですが、この「野球」をこよなく愛し、自らの雅号に用いた人物が正岡子規です。

### フォアボールは「四球」？

8月15日は終戦記念日で、各地で平和について考える取組が行われます。太平洋戦争時、野球は「敵性スポーツ」として迫害の対象になり、国内でも試合などを自粛する傾向がみられました。これに伴い野球関係者はストライクを「正球」、アウトが「ダメ」など、各種の用語を日本語に置き換え、その存続に努めました。これより約50年前、野球の普及・拡大を目的として用語の翻訳を手掛けた人物が、俳人、正岡子規（本名は常規）です。日本に野球が伝わる4年前に松山で生まれた子規は、明治17年（1884）に東京大学予備門に入学します。ここで彼は生涯の友人となる夏目漱石と、当時最先端のスポーツであった「野球」に出会います。正岡子規は草創期の野球に熱中し、捕手のポジションを務めます。また野球好きが高じて、フライを「飛球」、「ストリート」を「直球」などその用語の翻訳を手掛けています。中馬庚がベースボールを「野球」と翻訳する4年前の明治23年（1890）

には子規の幼名「升」に因んで、「野球（のぼる）」という雅号を用いていることから、その意味や読み方は異なるものの、日本ではじめて「野球」という表記を用いた人物となっています。しかし野球に熱中するあまり、肝心の勉学が疎かになってしまいます。これを助けたのが同窓の夏目漱石で、一方の子規も野球や俳句を漱石に教えるなどお互い切磋琢磨しながら交流を深めていきます。

### 博物館展示資料に「友情の証」！

みやこ町歴史民俗博物館の夏目漱石関連資料の中には、1344年前の明治22年（1889）8月7日から30日にかけて漱石が友人4名と夏休みに房総半島を旅した際の「木屑録」があります。漱石はこの批評を正岡子規に依頼し、同年10月13日に子規は「びっしりと」朱書きで批評を書き込んだ原稿を漱石に返していますが、子規は漱石

の優れた漢文を見て「千万人に一人」と評し、その才能を称えています。お互いを「唯一無二の親友」と認めた漱石と子規ですが、この「木屑録」はその友情を物語る貴重な資料として注目されています。その後も正岡子規は、野球を題材とした句や歌を詠むなど野球の普及に貢献しますが、病により35歳の若さで亡くなります。正岡子規は野球の普及に努めた功績が評価され、平成14年（2002）に野球殿堂入りを果たしています。



▲木屑録。添削は正岡子規によるもの（みやこ町歴史民俗博物館蔵）

球場地下から発見された「みやこ」終戦直後の昭和24年（1949）に福岡の舞鶴公園内（福岡城跡）に建設されたのが「平和台球場」です。西鉄ライオンズや福岡ダイエーホークスの拠点になったこの球場周辺は、古くから「鴻臚館」という古代の迎賓館跡の所在が唱えられてきました。平成元年（1989）、この球場で行われた発掘調査で、「京都郡庸米六斗」と記された木簡が発見されました。遺構の年代から約1300年前のものであることが確認され「京都（みやこ）」の表記が約1300年前から使用されていたことを裏付ける「大発見」となりました。様々な人々の熱意によって150年の歴史を構築した日本の野球は今後も進化を遂げながら永く継承されていくことでしょう。

（井上信隆）